

## 令和2年度 学校評価実施報告書

学校名 ( 岡崎中学校 )

教育目標	
「自ら学ぶ力」と「自ら律する力」を高め、 確かな学力・豊かな心・健やかな体を備えた生徒を育成する	
年度末の最終評価	
自己評価	<p>教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し</p> <p>「課題解決力上・コミュニケーション力の向上」を目標に、各教科とも話し合い活動を習慣化してきた。全国学力調査や学習確認プログラムの結果は昨年度より全般的に向上しており成果として現れているように感じる。しかしながら、一部の教科については旧態依然とした授業展開が繰り返され、生徒の満足度も低い。各学年・各教科とも生徒にとって魅力的な授業実践になるよう、教科会を定例で実施し、授業について積極的に意見交換していきたい。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>行事や取組で来校する度に、生徒や教職員からの挨拶もあり学校全体の雰囲気の良いさを感じる。各種アンケート結果を見ても、教職員と生徒・保護者がよい関係であることが見て取れる。1つ気になるのは、生徒アンケートで「自分には良いところがある」という項目に対して相変わらず否定的な回答が多いことである。生徒の様子を見ていても、はつらつと行動しておりもっと自分に自信を持って欲しいと感じる。</p>

## 学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和2年11月30日	学校運営協議会
最終評価	令和3年2月18日	学校運営協議会

## (1)「確かな学力」の育成に向けて『学力向上プラン』

重点目標
<p>「自ら学習する力・自ら考え表現する力を身につけさせる」</p> <p>・すべての教育活動の基本は『授業』であるという認識を生徒・教職員が、共に持つこと。その上で、『主体的、対話的で深い学び』をめざした授業づくりに取り組む。生徒が輝き、お互いに信頼感のある授業の実現を目指す。また、家庭学習を定着・充実させるために、各授業は予習・復習を前提として行うことを共通認識し、家庭学習と授業のつながりを重視しながら、学力の向上に繋げる。</p>

具体的な取組	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 六校（岡崎中・近衛中・錦林小・第三錦林小・第四錦林小・北白川小）で作成した「構想図」を軸とした取組を実践し、教育課程の編成や指導形態を工夫・改善し、9年間一貫した体制を構築することで確かな学力の定着を図る。</li> <li>2. 日常的な授業改善を図るため、教科会を基盤として教材研究を推進し、指導内容の精選や指導法の工夫と改善に努める。</li> <li>3. 岡崎中ブロックで協力して、家庭での自学自習の習慣をつけるために、家庭学習の具体的な方法などを提示し、授業に繋げる家庭学習の推進を図る。</li> <li>4. 図書支援員と連携し、図書館活用を推進し、読書の推進だけでなく、各教科で図書館を活用した授業をすすめ、生徒自らが課題解決学習に取り組めるよう図っていく。</li> <li>5. 定期考査や学習確認プログラムなどの各種テストの分析や、多くの教員による個々の生徒の実態分析をもとに生徒の学習課題を把握するとともに指導のねらいを明確にし、計画的に学習指導を進めていく。</li> </ol>
(取組結果を検証する) 各種指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジョイントプログラム・学習確認プログラムの結果</li> <li>・生徒及び保護者アンケートの結果</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、わかるまで教えてくれている。</li> <li>② 私は、家で自分で計画を立てて勉強している。</li> <li>③ 子どもは、授業の内容をよく理解し、興味・関心をもって取り組んでいる。</li> <li>④ 個に応じた基礎・基本の学力の定着を目指した取組が行われている。</li> </ol>

## 中間評価

各種指標結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年生の学習確認プログラム（1st）は、概ね良好であったが、理科に限っては全市平均を4ポイント程下回る結果であった。</li> </ul>
アンケート結果	<ol style="list-style-type: none"> <li>① すべての学年で90%以上の生徒が肯定的な回答であった。</li> <li>② すべての学年で肯定的な回答の生徒は50%程度。学年が上がるとともに、通塾率が高まり、「学習は塾でやる」という生徒が多い。</li> </ol>
自己評価	分析（成果と課題）
	<p>ジョイントプログラム・学習確認プログラムの結果から教科ごとの課題も明らかになってきた。新型コロナウイルス感染拡大防止の為に工夫が必要であるが、今後も主体的・対話的で深い学びをめざした授業づくりを継続して推進し、成果に結びつけていきたい。</p>
	分析を踏まえた取組の改善
<p>ジョイントプログラム・学習確認プログラムの結果、多くの教科では全市平均を大きく上回っている。今後も教科会を充実させ、個々教職員の力量向上を図りたい。</p>	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標
生徒・保護者対象のアンケート	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、わかるまで教えてくれている。</li> </ol>

	<p>② 私は、家で自分で計画を立てて勉強している。</p> <p>③ 子どもは、授業の内容をよく理解し、興味・関心をもって取り組んでいる。</p> <p>④ 個に応じた基礎・基本の学力の定着を目指した取組が行われている。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>今年度は新型コロナの影響で参観や行事見学をする機会が無いが、地域で接する生徒達の表情は良く、安心して学校生活を送っている印象である。しかし、背景に困難を抱えた生徒も存在していると思うので現状に満足しないでさらなる改革を推進してほしい。</p> <p>(R2・11・30学校運営協議会)</p>

#### 最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <p>2月実施の生徒・保護者対象のアンケート</p> <p>・先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、わかるまで教えてくれている。</p> <p>全学年の90%の生徒が肯定的な回答。</p> <p>・私は、家で自分で計画を立てて勉強している。</p> <p>10月実施のアンケートと比較して、1年生では54%→54% 2年生は50%→62% 3年生は45%→58%と肯定的な回答の割合が大きく増加した。</p> <p>・子どもは、授業の内容をよく理解し、興味・関心をもって取り組んでいる。</p> <p>10月実施のアンケートと比較して73%→77%と肯定的な回答が増加した。</p> <p>・個に応じた基礎・基本の学力の定着を目指した取組が行われている。</p> <p>10月実施のアンケートと比較して69%→72%と肯定的な回答が増加した。</p>
自己評価	<p>分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>生徒及び保護者へのアンケート結果から、家庭学習に取り組む生徒が増えてきている。また、学習確認プログラムの結果も総合的に向上している。</p> <p>「主体的・対話的で深い学びをめざした授業づくり」を目指し、校内で授業研修も実施しているが、教師によってはまだまだ意識が低く、十分に授業改善に取り組めていない実態があるのも事実である。子どもたちに自学自習の習慣化が身につくように、今後も学びの質を高めていきたい。</p> <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>アンケート結果は、年度末の校内研修会でも共有した。学校目標を達成するためには、生徒の資質・能力を高めることが必要であり、そのためには魅力的でわかる授業展開が不可欠である。教科会や内外の研修会を充実させて教師相互の力量を上げていきたい。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>新型コロナの対応で、以前に増して様々な工夫や配慮が必要であるが、学校教育目標の実現に向けて今後も努力を続けてほしい。(R3年2月18日 学校運営協議会実施)</p>

#### (2)「豊かな心」の育成に向けて

重点目標	<p>「しなやかな道徳」の研究指定に基づき研究を推進し、思いやりの心を育てるとともに自らを律することのできる生徒とその集団を育てる。</p>
具体的な取組	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 道徳的实践力を生徒に身につけさせるために、「道徳の時間」を充実させるとともに、他の様々な教育活動を通して、思いやりの心をもち、自らを律することのできる生徒とその集団を形成していく。</li> <li>2. 望ましい人間関係の中で、生徒が集団の一員として協働する態度を育成するとともに、場と状況を考え、他者との関わりを大切にし、正しく判断し行動できる生徒を育成する。</li> <li>3. これまでの本校の「人権学習」を、カリキュラム・マネジメントの視点から再構築する。いじめをはじめとする人権侵害を絶対に許さないという強い姿勢を持って、人権文化の確立を図る。</li> <li>4. 「人のために」行動することの素晴らしさを知り、そして見守り育ててくれている地域との連携をすすめる、地域に貢献できる生徒を育てる。</li> </ol>
(取組結果を検証する) 各種指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳授業で生徒が記入したワークシート</li> <li>・公開授業（道徳）の際の保護者からの意見</li> <li>・生徒アンケートの結果</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 私は、人が困っているときは、進んで助けている。</li> <li>② 私は、人の役に立つ人間になりたいと思う。</li> <li>③ 私は、道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると思う。</li> </ol>

## 中間評価

自己評価	各種指標結果	<p>今年度は新型コロナの影響で、道徳の授業公開が実施できていない。</p>
	アンケート結果	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 1年生80%，2年生86%，3年生75%が肯定的な回答であった。</li> <li>② 1・2年生90%，3年生80%が肯定的な回答であった。</li> <li>③ 1年生75%，2年生86%，3年生47%が肯定的な回答であった。</li> </ol>
	分析（成果と課題）	<p>自分や仲間を大切にする思いやりの心を育てるために、「道徳の時間」や「人権学習」を下半期も計画的に実践し、思いやりの心をもち自らを律することのできる生徒とその集団の形成を目指したい。</p>
	分析を踏まえた取組の改善	<p>道徳的实践力を生徒に身につけさせるために、「道徳の時間」に限らず日頃の教科授業、学校行事など教育活動の中で、自らを律することのできる生徒とその集団を形成していくことを全教職員が意識して取り組んでいく。</p>
	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標	

	<p>生徒対象アンケート</p> <p>① 私は、人が困っているときは、進んで助けている。</p> <p>② 私は、人の役に立つ人間になりたいと思う。</p> <p>③ 私は、道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると思う。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>・学校が地域・家庭との連携を深めながら生徒達の内面の成長につなげて欲しい。</p> <p>(R2.11.30 学校運営協議会)</p>

#### 最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <p>・2月実施生徒アンケートの結果</p> <p>① 私は、人が困っているときは、進んで助けている。</p> <p>1年生77%, 2年生91%, 3年生78%が肯定的な回答</p> <p>② 私は、人の役に立つ人間になりたいと思う。</p> <p>1年生98%, 2年生97%, 3年生92%が肯定的な回答</p> <p>③ 私は、道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると思う。</p> <p>全学年とも、ほぼ80%が肯定的な回答</p>
自己評価	<p>分析(成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>指標結果の数値は非常に高く、教職員の日常の取組の成果の現れであれば嬉しい。生徒達は、日頃の学校生活を穏やかに過ごし、他者と協働しながら自らの行動を決定しているように感じている。</p> <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>道徳の授業はもちろんだが、生徒が集団の一員として協働する態度を育成するとともに、場と状況を考え、他者との関わりを大切に、正しく判断し行動できる生徒を育成する為に今後も「生徒指導の3機能」の理論を全教職員で共有し、実践をつづけていきたい。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>「特別の教科 道徳」として位置付けられた中、「人の役に立ちたい」という項目に対してほとんどの生徒が肯定的な回答をしており、教職員が様々な努力をしていることがわかる。(R3年2月18日 学校運営協議会実施)</p>

#### (3)「健やかな体」の育成に向けて

重点目標	ESDの柱として、健康教育・防災教育を重点とする。
具体的な取組	<p>「いのちを守る」ことの大切さを基盤にして、以下の取組を行う。</p> <p>1. 自らの健康のために食習慣や生活習慣の在り方を考え、実践しようとする生徒を育</p>

成する。

2. 1・2年生で「防煙教室」「非行防止教室」、3年生で「薬物乱用防止教室」「性教育指導」を専門家である外部講師の力を借りて、進める。

防災意識を高め、安全や防災教育の充実・発展を図る。特に、災害時に自らの命を守る自助の力、他の人の命を助ける共助の力を育成する。

(取組結果を検証する) 各種指標

生徒アンケートの結果

- ① 私は、朝食を毎日食べている。
- ② 私は、毎日同じくらいの時刻に寝ている。
- ③ 私は、毎日同じくらいの時刻に起きている。

#### 中間評価

各種指標結果

アンケート結果

- ① 全学年とも90%以上の生徒が肯定的な回答であった。
- ② 1年生79%、2年生73%、3年生78%が肯定的な回答であった。
- ③ 1年生86%、2年生91%、3年生90%が肯定的な回答であった。

自己評価

分析(成果と課題)

感染症対策として、免疫力を高めるために様々な教育活動の場で、「手洗いの徹底」「早寝早起きなど規則正しい生活」「栄養価の高い食事摂取」などを繰り返し指導し生徒の健康安全に対する意識も高まっているように感じる。その活動を通して子どもたちにつけたい力を教職員が共有しながら今後も取組を進めたい。

分析を踏まえた取組の改善

若年層の薬物乱用が問題となっているが、関係機関等との連携をすすめ、校内では保健体育の授業や「薬物乱用防止教室」を開催し啓発に努める。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

生徒対象アンケート

- ① 私は、朝食を毎日食べている。
- ② 私は、毎日同じくらいの時刻に寝ている。
- ③ 私は、毎日同じくらいの時刻に起きている。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・新型コロナの影響で従来の岡崎フェスタや、区民運動会等が今年度中止となり、外での活動が制限されているが、感染症対策に十分に留意しながら心身の発達をつなげる活動を継続して欲しい。(R2.11.30学校運営協議会)

#### 最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果

生徒及び保護者アンケートの結果

- ① 私は、朝食を毎日食べている。

全学年とも90%以上の生徒が肯定的な回答

- ② 私は、毎日同じくらいの時刻に寝ている。

<p>10月実施の結果と比較して数値が向上し、85%以上の生徒が肯定的な回答</p> <p>③ 私は、毎日同じくらいの時刻に起きている。</p> <p>全学年とも90%以上の生徒が肯定的な回答</p>	
自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大防止のための免疫力向上のために、校内でも様々な啓発を繰り返してきた。「早寝早起き・朝ごはん」は、その基本となるものであり、家庭の協力もあって成果が出たと感じている。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>自らの健康のために食習慣や生活習慣の在り方を考え、実践しようとする生徒を育成するという目標は、今回のアンケート結果から実現できていると感じている。子どもたちにつけたい力を教職員が共有し、今後も取組を進めたい。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>感染症対策に十分に留意しながら心身の発達をつなげる活動を継続して欲しい。（R3.2.18 学校運営協議会）</p>

#### （４）学校独自の取組

<p>重点目標</p> <p>生徒の自己指導力を高める</p>
<p>具体的な取組</p> <p>学力向上にも密接な関係のある「生徒の自己指導力を高める」為に、教職員は常に生徒たちの「長所」を視点として全ての教育活動に取り組む。また、あらゆる教育活動の中で、自己存在感の得られる場・共感的人間関係を構築できる場・生徒自身が自己決定できる場を設定する。</p>
<p>（取組結果を検証する）各種指標</p> <p>生徒アンケートの結果</p> <p>① 私は、自分には良いところがあると思う。</p> <p>② 私は、学校の規則を守っている。</p> <p>③ 私は、学校に行くのは楽しいと思う。</p>

#### 中間評価

<p>各種指標結果</p> <p>アンケート結果</p> <p>① 1年生52%，2年生70%，3年生53%が肯定的な回答であった。</p> <p>② 全学年とも95%程度が肯定的な回答であった。</p> <p>③ 1年生83%，2年生88%，3年生73%が肯定的な回答であった。</p>	
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <p>夏季校内研修会でも、生徒指導の3機能を効果的に実践する方策が話し合われた。全教職員が、教育活動の中で自己存在感の得られる場・共感的人間関係を構築できる場・生徒自身が自</p>

価	己決定できる場の設定を意識して取り組んでいる。
	<div>分析を踏まえた取組の改善</div> <p>生徒の自己指導力を高める為に、教職員は引き続き生徒たちの「長所」を視点として全ての教育活動に取り組む。自己存在感の得られる場・共感的人間関係を構築できる場・生徒自身が自己決定できる場を教育活動の中で意識して設定する。</p>
	<div>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</div> <p>生徒対象アンケート</p> <p>① 私は、自分には良いところがあると思う。</p> <p>② 私は、学校の規則を守っている。</p> <p>③ 私は、学校に行くのは楽しいと思う。</p>
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <p>・地域での様子を見ていても、中学生が良い表情で活躍している場面が多い。教職員の働き方改革が言われる中だが、教職員は今後も手を抜くことなく生徒の健全育成に努力を続けて欲しい。(R2.11.30 学校運営協議会実施)</p>

#### 最終評価

自己評価	<div>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</div> <p><b>生徒及び保護者アンケートの結果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分にはよいところがあると思う。</li> </ul> <p>1年生59%, 2年生74%, 3年生62%が肯定的な回答</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の規則を守れている。</li> </ul> <p>全学年とも90%以上が肯定的な回答</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校は楽しい。</li> </ul> <p>1年生81%, 2年生78%, 3年生74%が肯定的な回答</p>
	<div>分析(成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題</div> <p>客観的に見て、生徒が落ち着いた状態で学校生活を過ごしており、アンケート結果からも規範意識をしっかりと持ちながら学校生活を過ごしていることがわかった。全ての指標項目が100%肯定的な回答になるよう教育実践を続けたい。</p>
	<div>分析を踏まえた取組の改善</div> <p>新たな取組を取り入れるのではなく、従来からの取組の目的を再確認しながら、教職員が同じ意識を持って実践していきたい。</p>
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <p>地域で目にする岡崎中学校の生徒は、礼儀正しく表情もよく学校生活を楽しんでいる様子がわかる。アンケート結果からも教職員が丁寧に生徒に接し、生徒自身が自己肯定感を持っているように思う。(R3年2月18日 学校運営協議会実施)</p>

#### (5) 教職員の働き方改革について



重点目標
働き方改革を推進するため、教職員の意識改革を図ると共に地域・保護者との意識の共有に努める
具体的な取組
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出退勤システムを適切に運用し、教職員の勤務時間縮減と管理を徹底する。</li> <li>・教職員定期健康診断の悉皆受診や要精検者への受診指導を図る。</li> </ul>
(取組結果を検証する) 各種指標
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ストレスチェック受検率</li> <li>・時間外勤務時間の前年度との比較</li> </ul>

#### 中間評価

各種指標結果
出退勤システムによる長時間時間外勤務職員（80H以上）の昨年度との比較 4月 6人⇒0人 5月 4人⇒0人 6月 5人⇒3人 7月 3人⇒6人 8月 0人⇒1人 9月 2人⇒4人
自己評価
<div>分析（成果と課題）</div> <p>年度当初の臨時休業期間は長時間時間外勤務の教職員は0人であったが、学校再開後は登校時の生徒の健康観察（検温チェック）、完全下校後の各所消毒作業、45分授業に対応した教材作成など新たな仕事も発生し、7月は昨年度と比較しても人数が増加した。しかし、教職員全員が意識をそろえて勤務時間の縮減に取り組んでおり、少しずつ成果がでている。</p>
<div>分析を踏まえた取組の改善</div> <p>部活動規定の見直し（下校時間を早める）、行事の精選を推進する等、今年度の取組について検証し、ゼロベースで見直していきたい。</p>
<div>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ストレスチェック受検率</li> <li>・時間外勤務時間の前年度との比較</li> </ul>
学校関係者評価
<div>学校関係者による意見・支援策</div> <p>教職員の仕事の中には、生徒の健全育成・保護者や家庭支援の為に超過勤務がやむを得ない場合もあると思う。しかし教職員の心身の健康の為に、取組の縮減など前例にとらわれずに見直して欲しい。(R2.11.30 学校運営協議会)</p>

#### 最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果
<p>ストレスチェックは全教職員が受検</p> <p>時間外勤務時間は、前年度と比較して少しずつ減少している</p>
自己評価
<div>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</div> <p>時間外勤務時間については、昨年度と比較して。しかし、教職員が日常の業務を早く切り上げて、時間外勤務を減らせば良い という単純な問題ではなく、行事や取組を見直し教職員の意識を変えることが必要だと思われる。</p>
<div>分析を踏まえた取組の改善</div> <p>時間外勤務の大きな要因となっている勤務時間終了後の部活動指導を少しでも改善するために、</p>

	<p>次年度は部活動の終了時間（生徒完全下校時間）を現行より早めることを検討している。また学年で取り組んでいる，総合学習のプラットフォームをどの教職員も活用できるようにして，取組に費やす準備時間を大幅に削減していきたい。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>以前は夜遅くまで灯りのついていた職員室が，最近は消えてることも多くなり教職員の働き方改革に向けて努力をしていることがよくわかる。</p> <p>（R3. 2. 18 学校運営協議会）</p>